

改善提案 2020 ～医療現場での取組～ プログラム

順番	発表時間	病院名		テーマ概要
	10:00～10:15			開 会 式
1	10:15～10:30	都立	駒込病院	<p>でっかくなって帰ってきた！！診療科チームで取り組むタイムマネジメント</p> <p>手術室稼働効率向上を目的に、医師・看護師が協同して手術準備時間82.6分/日短縮する仕組みを構築した。みんなで楽しむ業務改革をモットーに、全8チームで診療科別の役割分担カード作成等に取り組み、各チームで意識が高まる工夫をした。経営改善・患者サービス向上・働き方改革などが期待できる。</p>
2	10:30～10:45	公社	大久保病院	<p>変えて、よかつ棚（たな）～医薬品在庫管理の適正化～</p> <p>適正な医薬品管理を行うことは病院経営上重要である。今回、適正在庫の確保と発注業務の効率化を目指し、調剤室のレイアウト変更と発注業務の見直しを行った。その結果、内用薬の在庫金額の大幅な減額と在庫確認時間の短縮を実現できた。今後は輸液等についても在庫管理の適正化に着手していく。</p>
3	10:45～11:00	福保	東大和療育センター	<p>時間と方法を工夫し整容サービスの質を改善する 装うことを支える大切さ</p> <p>利用者の高齢化や易骨折等により入浴時間が延長、入浴後の爪切りが難しくなった。整容は利用者にとって喜びや、爽快感に繋がるが、安全や生理的欲求の充足に力が注がれ基本的欲求を十分に支えていると言い難い。今回整容の中で特に、爪切りに着目し支援の方法を検討し実践した結果と課題を報告する。</p>
4	11:00～11:15	都立	大塚病院	<p>外国人患者さんにも安心な食事提供</p> <p>今後ますます増加する外国人患者に対して、タブレット端末を利用した病院食説明及び食事問診ができるコミュニケーションツールを作成した。イラストや写真を多用することで、英語以外の言語でも、指さして患者の希望を確認でき、患者サービス及び医療安全の向上に寄与した。</p>
5	11:15～11:30	公社	東京都がん検診センター	<p>検査科通信の作成</p> <p>検査科待合所に検査説明の掲示をしているが掲示物だけでは受診者が検査の注意事項を十分に理解することは難しい。そのため、待ち時間を有効に利用して検査への理解を深め、かつ持ち帰ることが可能なパンフレット（検査科通信）を、検査時の注意事項を明確に記載し、ミニコラム付きで作成した。</p>
6	11:30～11:45	公社	豊島病院	<p>放射線科の手術支援レポート</p> <p>画像等手術支援加算の算定範囲拡大に向けて取り組みを行った。放射線科の3Dワークステーションを手術室で表示できる環境を整え、他科と連携を取りながら、算定するためのワークフローを整備した。その結果、算定可能な手術を拡大し、増収につながった。今後は、更なる算定拡大を図りたい。</p>
	11:45～13:00			休 憩
7	13:00～13:15	公社	荏原病院	<p>安全な嚥下食の提供を目指して</p> <p>嚥下障害の食事支援のため、学会分類に基づく嚥下食を提供している。嚥下チームとして回診する中で、嚥下障害患者にとって一部不適切な形態の料理があることがわかった。チームで改善に取り組み、生きる楽しみにつながる経口食支援のためのより安全で治療効果の高い食事提供につながったので報告する。</p>
8	13:15～13:30	福保	北療育医療センター	<p>あなたにあったとろみを提供します～「北療版とろみつけ早見表」の作成～</p> <p>利用者にあったとろみつけが誰でもできるように、とろみつけ早見表の作成を行った。早見表には、とろみつけが難しいとされた乳飲料についても盛り込んだ。また、とろみについての知識を深めるためのセミナーを実施した。今後も多職種で連携して、とろみの正しい知識を広く伝えていきたい。</p>
9	13:30～13:45	都立	広尾病院	<p>510病棟E-MAT始動</p> <p>脳神経外科の入院患者の積極的な早期離床を促すべく、多職種（医師、看護師、理学療法士）からなる離床支援チーム（Early Mobilization Assistance Team: E-MAT）を構築し、離床カンファレンスを行った。結果離床における問題点の共有に成功し、肺炎や褥瘡といった合併症回避などに寄与する可能性を見出すことができた。</p>
10	13:45～14:00	都立	墨東病院	<p>Kindness ER ～患者と技師にやさしい撮影室を目指して～</p> <p>ERを受診される患者さんは症状も多岐に渡るため、放射線科では患者状態を考慮した撮影を行っている。痛みの強い患者さんや小児に対し、不安なく安全に優しくX線撮影を行えるよう撮影補助具を新しく作成した。これにより、患者サービス向上と技師の負担軽減に寄与する成果が得られた。</p>

改善提案 2020 ～医療現場での取組～ プログラム

順番	発表時間	病院名		テーマ概要
	14:00～14:15			休 憩
11	14:15～14:30	公社	東部地域病院	<p>内視鏡から始まるがん患者支援</p> <p>内視鏡看護師は検査実施時に病状判断に繋がる情報を得られると共に、患者との関わりを通し患者の背景を知ることできる。内視鏡看護師が得る情報を、外来診療に繋ぎ、がん告知や治療の意思決定支援を促進するため内視鏡看護師の行動変容を促す勉強会の実施と連携システムの構築を行った。</p>
12	14:30～14:45	都立	多摩総合医療センター	<p>点滴ライトの作成 くるりライト</p> <p>夜間も点滴を行う入院患者は多い。夜の病室は暗く、懐中電灯を片手に、点滴作業は困難で患者の顔に光が当たってしまう。そこで安全で患者に優しい、点滴ライトの作成を考えた。スタンドにワンタッチで着脱できる、新製品の点滴ライトを作成することができた。</p>
13	14:45～15:00	都立	神経病院	<p>おいしい抗てんかん薬の飲み方</p> <p>抗てんかん薬に特化した服薬補助食品が市販されていないことに着目し、患児が好みそうな食材・飲料と合わせて味見することで、服薬し易い飲み合わせを検討した。多職種で2回の味見検討会を行い、抗てんかん薬の特徴を捉えることができた。今後は、検討結果を踏まえ、服薬指導に活用していく。</p>
14	15:00～15:15	都立	小児総合医療センター	<p>ファシリテッドッグが介在した口腔ケアの取り組み</p> <p>周術期の患者の口腔機能管理には、合併症の予防効果があり、がん治療等の患者を対象に近年保険診療として収載された。当院でも適応となる小児がん患者がいるが、幼児であり歯磨き習慣の獲得は容易ではない。今回、ファシリテッドッグの介在により、患児の意識・行動変容がみられたため、報告する。</p>
	15:15～15:30			休 憩
15	15:30～15:45	公社	多摩南部地域病院	<p>地域薬剤師との集いから誕生！オリジナルの情報共有用紙でお薬手帳をrank up！</p> <p>お薬手帳の患者情報欄活用のため、地域薬剤師と協同し独自の『情報共有用紙』を作成した。当該用紙の使用は、薬物療法に必要な基本情報を各施設の医療従事者が共有することに繋がり、薬物療法のリスク回避と質の向上に貢献できる。今後も地域で使用後の意見交換を行い、さらなる医療安全に繋げたい。</p>
16	15:45～16:00	公社	多摩北部医療センター	<p>入院前から退院後までの切れ目のない栄養管理を目指して</p> <p>入院前から退院後までの切れ目のない栄養管理を目指し検討した。患者支援センターに管理栄養士が常駐し、栄養状態や食物アレルギー・嚥下状態等を把握し対応したことで、より安全な食事提供及び入院後の早期栄養介入が可能となった。また、入院前からの退院を視野に入れた在宅移行支援にも繋げられた。</p>
17	16:00～16:15	都立	松沢病院	<p>災害時におけるITを活用した情報共有について</p> <p>災害拠点病院である当院がその機能を十分に発揮するためには、医療職が発災後の救護活動に極力専念できる環境が必要である。そこで、災害対策本部への被害状況報告等を救護現場から離れずに行え、それらの情報を途中から参集した職員でも容易に確認できるようITを活用した災害ポータルを開発した。</p>
	16:15～16:55			休 憩
	16:55～17:30			表彰式、閉会式